



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.67



## 7月

発行 / 社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2008年7月1日

## 仲間と夢が地域をつくる。

副会長 中山庚一郎

三重県の伊賀の山の中にモクモク手づくりファームという農業法人があり、その20周年記念に先日参加した。この春に日本農業大賞を受賞し、最近いろいろなどところで取り上げられる著名な組織である。

モクモクは仏の木村、鬼の吉田と呼ばれる農協出身の同名の二人「修」が育て上げた組織である。当日の式典の中で岡山さんというスゴイ仲間が川柳を作って面白く紹介した。

創世記 売れぬ 困った双生児〔ソーセージ〕

ドイツまで勉強に行って作った伊賀豚ブランドのハムやソーセージがさっぱり売れないのである、二人修が困った困ったといった時期である。

二人修の理論は、一次産業×二次産業×三次産業＝六次産業であるべきという、生産、加工、販売の先に価値観の変革や食育、そして環境にも取り組む組織でありたいという。しかしその理想にはどれかひとつでも、ゼロになるとすべてがゼロになる怖さがある、そこに二人修が挑んだのである。

キャッシュフロー 無視した者は 浮浪者に。

バブルのころはさまざまな事業を始めていた、それがバブルが崩壊すると、銀行の貸しはがしにかかった。

何とか入場者を増やそうと、温泉を掘ることにしたのだが、銀行は相手にもしない。キャッシュがないと夢も理想も動かない。そのとき二人は考えた、「モクモク風呂桶募金」である。モクモクファームの二万五千の会員に、汗を流したら温泉に入ろうよ、と呼びかけたのである。驚くことに一億七千万円が集まったのである。

野天の湯 人脈 金脈 掘り起こす。

この仏と鬼は、金がなく、無謀という。しかし金がない故に自由であり、無謀ゆえに新しいチャレンジができる。食育という、まったくビジネスとは離れた世界に夢を抱き、伊賀の山里を元気な農業の源として、日本中にその名を知らしめたのは、無謀ゆえの力である。

食育に モクモク流の 術をかけ。

モクモクは宣言する。人と語り、土に学んで二十年、これからも、時代の風を感じつつ、自分たちの風を吹かせます。たとえ、それが小さな風であっても……。地域づくりの要は、仲間と夢である、モクモクには学ぶことが多い。

## 平成20年度の通常総会 報告

6月16日、臨海副都心の東京ベイコート倶楽部ホテル&スパリゾートにて平成20年度通常総会が開かれました。ニューヨークマンハッタンの開発に思いを馳せニューヨーク・アールデコをデザインコンセプトに計画されたこれまでに例のない完全会員制の都市型リゾートホテルでの総会でした。総会議案は滞りなく承認されました。

### 会長挨拶要旨

成熟した先進国への仲間入りを志向する時代に入り、緊急課題である地球環境や資源問題などを抱える内外の情勢に対し、観光領域も枠外とはいえない。何が可能かを問われている。

歴史的にも独自の景観・生活文化を地方固有の観光資源として観光地づくりに活かすための支援活動として、観光交流空間のまちづくり研究会など地域の持続的発展に寄与する協会活動の推進を表明。

観光立国推進計画を観光政策として総合的に推進するため10月に設立される観光庁への期待が述べられた。また12月に施行される公益法人制度改革(編集後記参照)への対応について、会員各位の積極的な参加を求められた。

### ご来賓挨拶要旨

国土交通省 総合政策局 観光事業課 課長 花角英世氏

最近のニュースとして3つのお話があった。

インバウンドが順調。2010年1000万人の目標に対し昨年835万人、今年は900万人を超す見通しで1000万人は1年前倒しで達成する見込み。宿泊統計の整備も進み外国人の割合が昨年は7.2%今年は1割に達する。

国内旅行市場は伸び悩み。滞在力のある地域づくりを行なうため観光圏(複数の都市、地域の連携)という概念での支援を法整備を伴って実施する。

ユニバーサルデザインの考え方に基づく観光促進。送り手である旅行業界と受け手であるまちづくり側とがコラボレートを図るための指針を制定した。

## 議案

- 第1号議案 平成19年度事業報告
- 第2号議案 平成19年度収支決算報告
- 第3号議案 平成20年度事業計画(案)
- 第4号議案 平成20年度収支予算(案)
- 第5号議案 役員の一部選任

## 役員の変任 報告

第5号議案として理事 長嶋秀孝氏の退任に伴う役員の一部選任を行い原案通り承認されました。

小関政男氏(社団法人国際観光旅館連盟 専務理事)

## 通常総会関連行事 報告

関連行事の第1部としてセミナー「東京ベイコート倶楽部ホテル&スパリゾートの誕生」が184名の参加を得て開催されました。最初はリゾートトラスト(株)の川辺部長の「開発コンセプト」のお話につき建築企画設計社 尺田社長の「全体計画」、観光企画設計社 田中理事の「建築設計」のお話があり、最後に観光企画設計社 本杉専務の「インテリア設計」に関する華麗な数十枚のスライドとお話で締めくくられました。セミナーのあと十数組に分れての見学会が行われました。

第二部の情報交歓会は国土交通省大臣官房審議官 西阪 昇様を始め多数のご来賓をお迎え致しました。村尾会長のご挨拶があり、西阪審議官のご挨拶、(社)日本観光協会 中村会長のご挨拶、国際観光振興機構 間宮理事長のご挨拶と乾杯のご発声により盛大に開催されました。201名の参加により大変な盛り上がりで、平田副会長の中締めで無事終了しました。

## 第2回観光交流空間のまちづくり研究会

5月7~8日秩父市で第2回観光交流空間のまちづくり研究会を開催しました。参加者は、全国各地の観光のまちづくり関係者、施設づくりの専門家、及び秩父地域の関係者など約70名で、研究会に先立ち長瀬地区の観光の現状、横瀬町の有機農業、芝さくら公園、及び市内の番場町の町並や34札所、秩父神社などを地域のインタープリターと共に歩いて見学しました。

研究会では、栗原稔市長が「花による秩父観光」について基調講演を行い、春の芝桜につづいて秋の真っ赤な紅葉による集客、薬樹と花の道、地域300の祭り、山ルビーのぶどう、メープルシロップの菓子作りなど製品の開発も進めたいと将来の秩父の夢を語られました。

パネルディスカッションでは、地域の実践者7名と各地から集まった研究会員とで、有機農業と製品の開発、若者の跡継ぎ問題、地歌舞伎の継承、自然景観の保存と手入れ、古い町並みの保存と活用、おもてなしの心、観光情報の一元化などについて、熱心な討論を行い、観光交流空間の大切さについての認識を深めました。

今回は12月初旬の予定です。

## 新入会員紹介 (入会順)

### 【個人】 三浦 利美

〒135-0042 東京都江東区木場3-14-11-1205  
TEL03-3643-8881 FAX03-3643-8881

### 【設計】 株式会社レーモンド設計事務所

(代表者)代表取締役 (担当者)取締役統括部部長  
青地 維明 田實 真  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木5-58-1  
TEL03-5453-0111 FAX03-5453-3120  
業務内容: 建築総合設計 監理 インテリア部門

### 【メーカー】 ジャトー株式会社

(代表者)代表取締役 (担当者)東京支社 グループマネージャー  
荒川 和雄 岩永 昌昭  
〒105-0012 東京都港区芝大門2-3-6 大門アパニスト5階  
TEL03-5408-3361 FAX03-5408-3369  
業務内容: 映像、音響、情報システム施工・メンテナンス

### 【個人】 丹波 信三郎

〒270-2261 千葉県松戸市常盤平1-25-3  
TEL090-1814-0207 FAX047-388-4167

## 交流部会第92回「ゴルフ会」報告

5月29日(木)に春のゴルフ会が、埼玉の名門「嵐山カントリークラブ」にて開催されました。当日は台風の影響で雨模様となり、しかもタフなコースという事も相俟って、皆さんスコアをまとめるのに苦労をされていたようです。初参加が10名、設計事務所会員が7名出席され、大変意義のある大会でした。次の秋の大会は11月12日(水)に同一会場で行なわれます。

【結果】	優勝、シニア優勝	武石弘明(シニア)	ネット
	準優勝	三舟敏夫(三建設備工業)	74.0
	B G	宮本隆司(日本電設) 兼平 慎(乃村工藝社)	74.6
			90

## ♥ 編集後記 ♥ 新公益法人への移行について

公益法人の新しい制度が本年12月1日に施行され、5年以内に新公益法人へ移行することになりますが、移行認定のための最大のポイントは、定められた公益目的事業の比率が全事業の2分の1以上あり、且つ公益目的事業を行うに相応しい基盤が十分に整備されていることが必要となります。公益目的事業とは、不特定且つ多数の者の利益の増進に寄与する事業で、23種類の事業が定められています。当協会の活動は、観光施設を中心に我国の観光事業の発展に寄与することを目的とした事業に取り組んでまいりましたが、新たな基準に従って、改めて次の項目について整理する必要が出てきました。

- 公益目的事業として、どんな事業が実施できるか。
- 収益事業として、どんな事業が考えられるか。
- 新しい事業をどこまで拡大できるか。
- 事業基盤をどこまで強化できるか。

これまでの事業を整理しつつ「新公益法人に向けた事業」として改めて整備するためには全員の協力が必要であり、さらなる協会の発展のため、努力してまいりたいと思います。新しい公益法人制度の詳細につきましては、事務局にお問い合わせ下さい。

Y.K